

随意契約・天下り是正

木原せいじ 私は、再生機構の組織のあり方について、真摯に議論をしていけば、必ず国民の理解を得られると思います。ただ、その前提として、関連会社との**随意契約**や**天下りの問題などを徹底的に解決**していただかねばなりません。その点お願いして、次に進みます。

私の地元には、日本初の大規模団地と言われるひばりが丘団地を含め17団地、約90000戸の公団住宅がございます。年末の再編・再生の方針では、4類型に分けて削減するとなっておりますが、ストック活用以外の3類型では何らかの形で住民に移転に伴う犠牲・コストがかかります。できる限りコストの少ない形にしたいと思いますが、高くなつて戻れないことがないよう、言明をいただきたい。

尾見機構理事 移転を伴う事業に当たっては、移転先の住宅確保、移転料・引越料の支払い、家賃減額の措置等を行います。そして、家賃の上昇がある場合でも、**従前と同じ程度の家賃負担**で入居が可能となるよう、400億円の出資金を活用し、**減額措置**を行うことを考えております。

南台団地について

木原せいじ 従前と同じ程度という「程度」に大きな幅がないよう真摯に対応していただきたい。そこで、私の地元では、唯一、集約型の団地再生となっている南台団地について伺います。私は、南台団地の皆さんは非常に割り切れない思いでいらつしやると思います。というのも、建替えをし

ますということ、10年間新規募集を停止してきた。結果として、入居率は7割をきり、入居は虫食い状態になっている。それを解消することも含めて集約していきますよと。マッチポンプといわれても仕方ない。

第一に、何故集約型という結論に至ったのか。第二に、機構の計画で全て決定ということではなく、今後、**住民の皆さんと協議、同意を経て**、再編は進められると思えますが、どういう手続きで議論していくのか。

第三に、協議の結果、仮に集約するということとならば、外壁工事はもちろんのこと、**バリアフリー化**なども含めてしっかりと団地を再生していただけのことの確認、以上です。

尾見機構理事 第一の点については、エリア戦略とあって、例えば西武池袋線周辺エリアを一つとして、全体のストックの量はどうか、団地の型式なりが適切か、全体的に検討して、南台については集約化とさせていただきました。

第二に、手続きについては、説明会・勉強会などを通じて**皆様方のご意見・ご要望**を伺って進めてまいりたいと思えます。

第三に、修繕が止まっていたのはご指摘のとおりですので、**計画修繕はきちつとやり遂げていく**ことが必要だと思います。それから、残す住宅があるわけですが、そこについては、バリアフリーだとか、高齢者や子育ての方々により**マッチした**住宅になるよう対応していきたいと思えます。

木原せいじ エリア戦略は組織を運営する立場の考えであって、住民の皆様からすれば、**自分の団地がすべて**ですから、エリア戦略は関係ありません。是非、住民の皆さんと協議を真剣にやっていたいただきたい。



子供の声の聞こえなくなった滑り台

木原せいじ事務所

■国会事務所 〒100-8982
東京都千代田区永田町2-1-2
衆議員第2議員会館606号室
TEL: 03-3508-7606
FAX: 03-3508-3986

■地元事務所 〒189-0013
東京都東村山市栄町2-22-13
松岡ビル2階
TEL: 042-392-4105
FAX: 042-392-4106



木原せいじモバイル
http://qtv60.com/
kihara/
携帯電話から木原せいじモバイルにつながります。

ボランティアを募集しています!

事務所内における事務、ポスター貼り、各種広報物の配布などお手伝いいただけるボランティアを募集しています。どんな事からでもかまいません。政治に興味があって、木原誠二の政治活動を手伝ってみたいと思われる方は是非ご連絡ください。



国会見学に行きませんか?!

木原せいじ事務所では、随時、国会見学を受け付けています。友達や仲間とお誘い合わせの上、是非ご来館ください。少人数からでもお気軽にご相談いただければ結構です。テレビで報道される国政の生の現場をご案内します。



木原せいじプロフィール

- ・私立武蔵中学・高校、東京大学法学部卒業
- ・大学時代はテニスで全国選抜3位
- ・平成5年大蔵省(現財務省)入省、主計局、大臣官房、国際局課長補佐、税務署長歴任
- ・その間、英国大蔵省出向(初代)
- ・平成17年9月 衆議院選挙当選
- ・現在、厚生労働委員会、内閣委員会、拉致特別委員会、各委員。党では、国際局次長、青年局次長、女性局次長、学生部参与。
- ・趣味はテニス・ピアノ・散歩。座右の銘「至誠通天」。
- ・著書「英国大蔵省から見た日本」(文春新書)

